

## 奥尻島におけるイワガキの生息状況

### 【はじめに】

奥尻島周辺海域は対馬暖流域にあり、北海道内としては比較的水温が高く、天然イワガキの生息地となっています。イワガキは冬が旬のマガキと異なり、夏に旬を迎える特徴を持つ大型のカキであることから、奥尻町及び地元漁協はイワガキを新たな特産物とするための取り組みを開始しています。しかし、カキ類の外部形態は生息環境の影響により変化し、外観から確実に種を判別することが困難です。そこで栽培水産試験場では、DNA 鑑定技術を用いてカキ類の種判別を行うことで、奥尻島におけるイワガキの生息状況を調べました。



奥尻島に生息する天然イワガキ

### 【奥尻島周辺のイワガキの分布状況】

奥尻島周辺のイワガキの分布状況を調べるため、奥尻漁協青年部により 7 地区 (A~F)、計 13 地点から採集されたカキ類 (計 215 個) について、外観撮影・殻高測定を行った後、閉殻筋の一部から DNA を抽出し、DNA 鑑定 (ミトコンドリア DNA の 16S r RNA の塩基配列の比較) を行いました。

DNA 鑑定によりカキ類の種判別を行った結果、奥尻島周辺の全域でイワガキの生息が確認されました (図 1 青色で示したのがイワガキ 円内の数字は分析個体数を示す)。

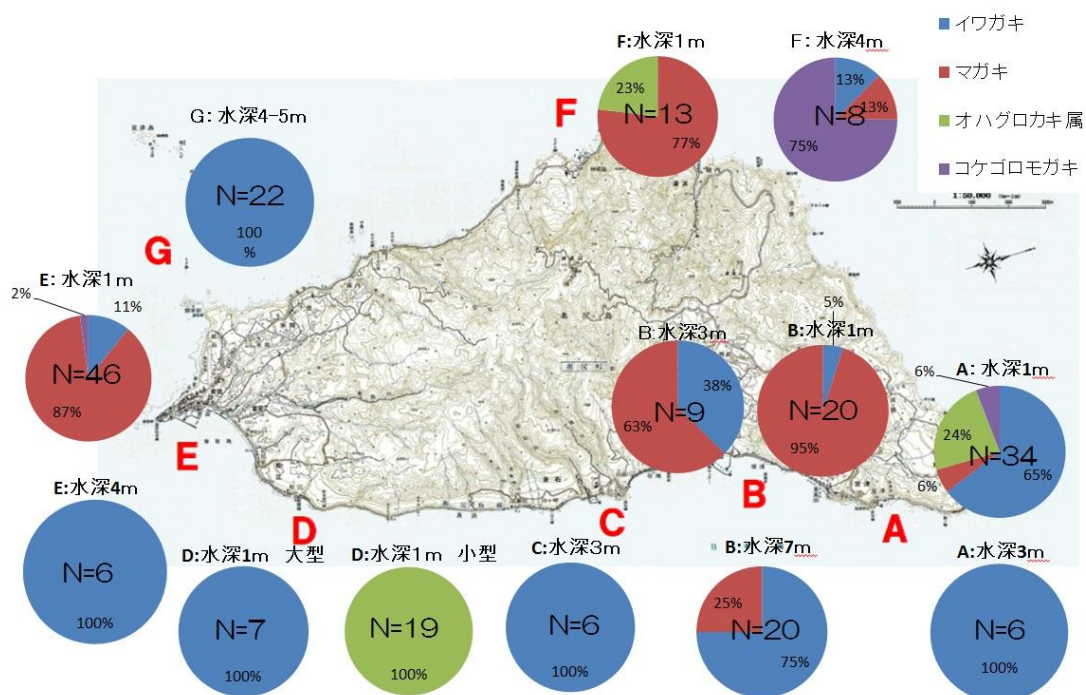


図 1 奥尻島周辺のカキ類の分布

【イワガキの生息状況の特徴】

今回採取したカキ類を、殻の大きさ別に種類を比較した結果、イワガキは殻高 12 cm以上の大きなカキに多いことが分かりました（図2 青色で示したのがイワガキ）。

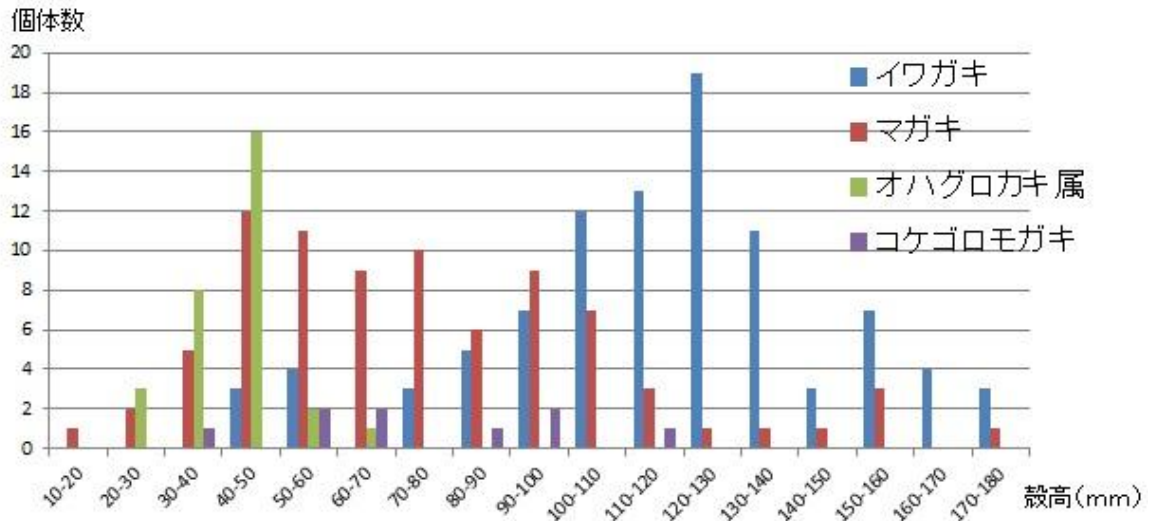


図2 殻高別のカキ類の組成

また、採取した水深別に生息するカキ類の種類を解析した結果、イワガキは他の種類に比べ深い場所にも生息していることが分かりました（図3 青色で示したのがイワガキ）。

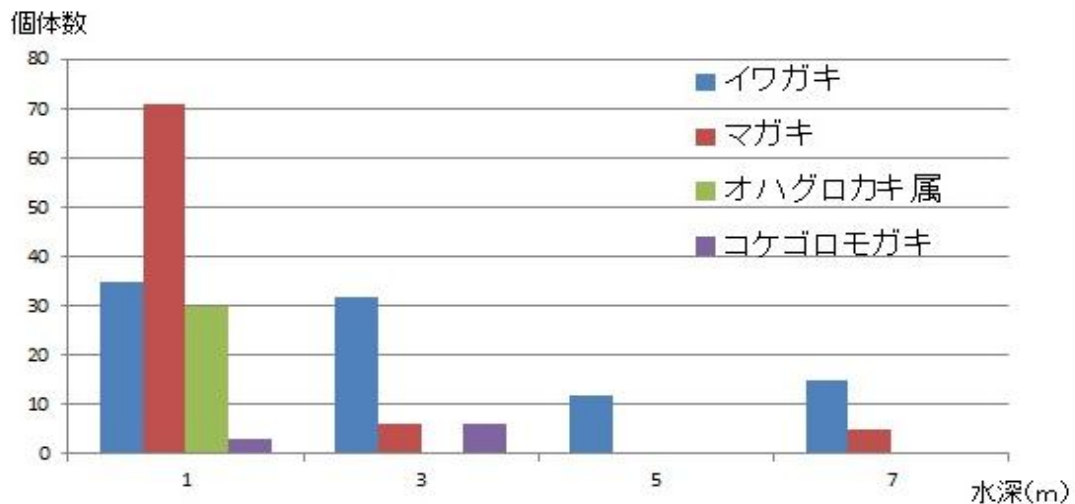


図3 水深別のカキ類の組成

【今後の課題】

今回の調査により、奥尻島全域にイワガキが生息していることが分かりました。しかし、特産品として安定的に生産を行うためには、イワガキを人工的に増やす必要があり、将来的に種苗生産技術や養殖技術開発などが必要となると考えられます。

(栽培水産試験場 川崎 琢真)